

# 第2期京田辺市 まち・ひと・しごと創生総合戦略 (人口ビジョン案)

---

令和元年10月

# 目 次

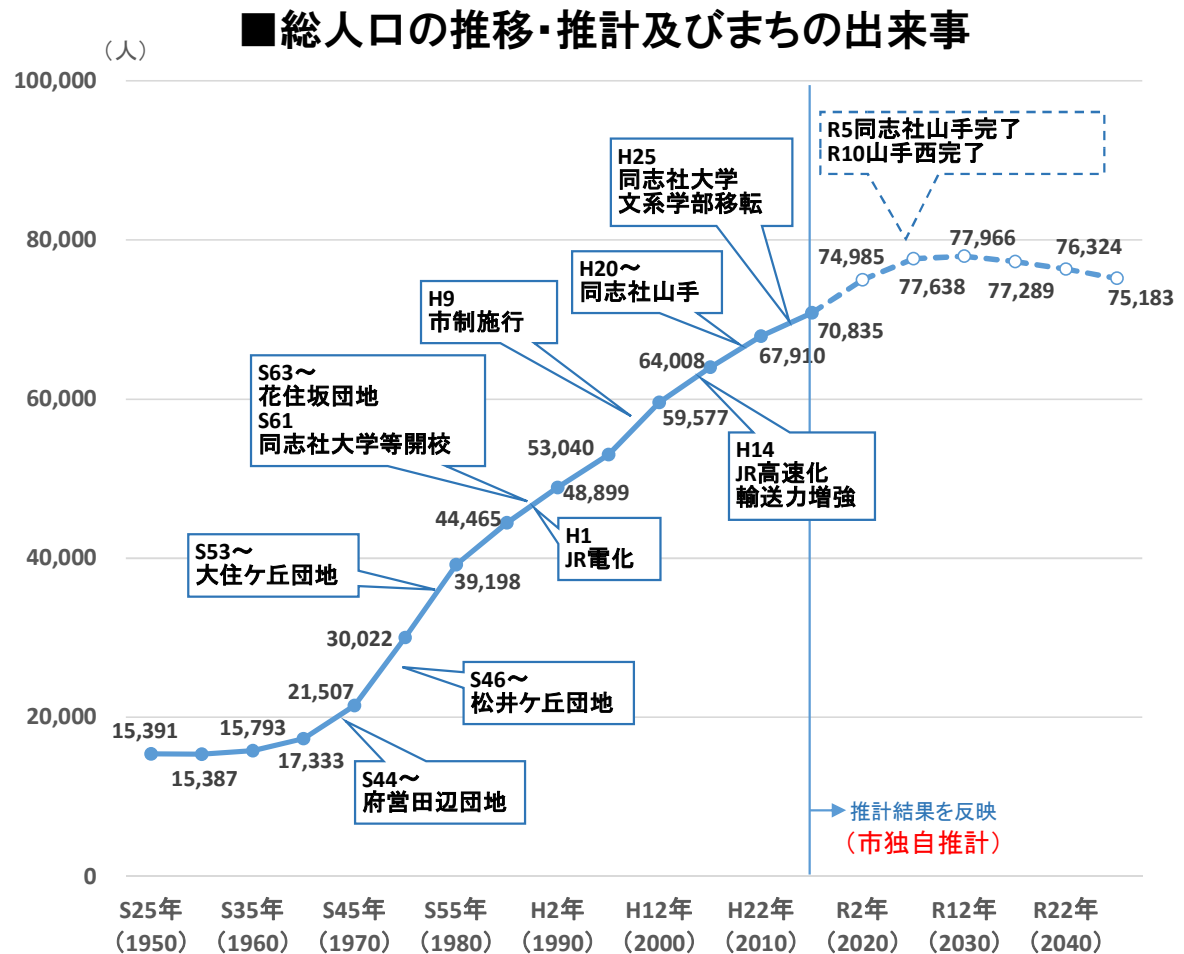
人口動向分析 .....	2
1. 人口動向に関する分析 .....	2
2. 年齢階層別の人口移動分析 .....	12
将来人口の検討と課題整理 .....	17
1. 将来人口と人口構成 .....	17
2. 地域別人口推計 .....	18
3. 年齢3区分別人口推計 .....	19
人口の将来展望 .....	23
1. 仮定値による将来人口の推計 .....	23

# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【総人口の推移】

- 多くの市町村が人口減少に転じている中、本市は現在も増加傾向
- 人口増は約10年後の令和12(2030)年まで続き、約78,000人まで達した後、緩やかに減少



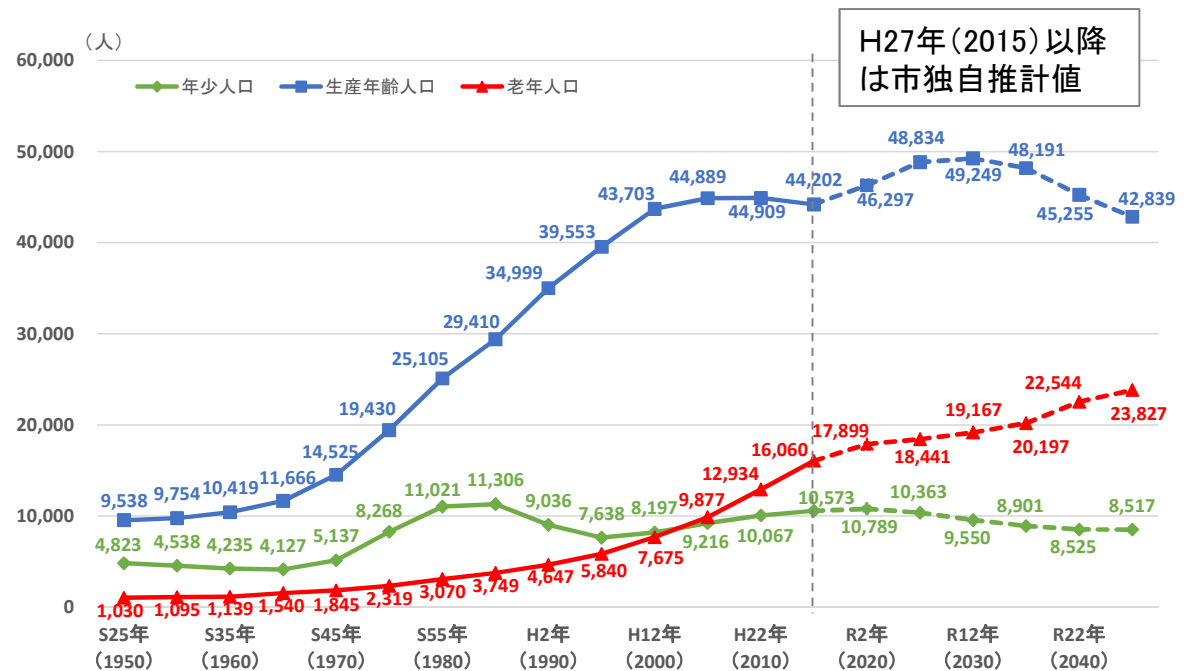
# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【年齢3区分別人口の推移】

- 年少人口は、1970年代の「団塊ジュニア世代」の誕生により増加し、昭和60（1985）年にピークを迎えるが、その後は減少から横ばい
- 生産年齢人口は、平成27（2015）年に一旦減少するものの、令和12（2030）年までは増加
- 老年人口は、昭和30（1950）年以降、増加の一途をたどっており、その増加率は近年高くなっている

■年齢3区分別人口の推移・推計



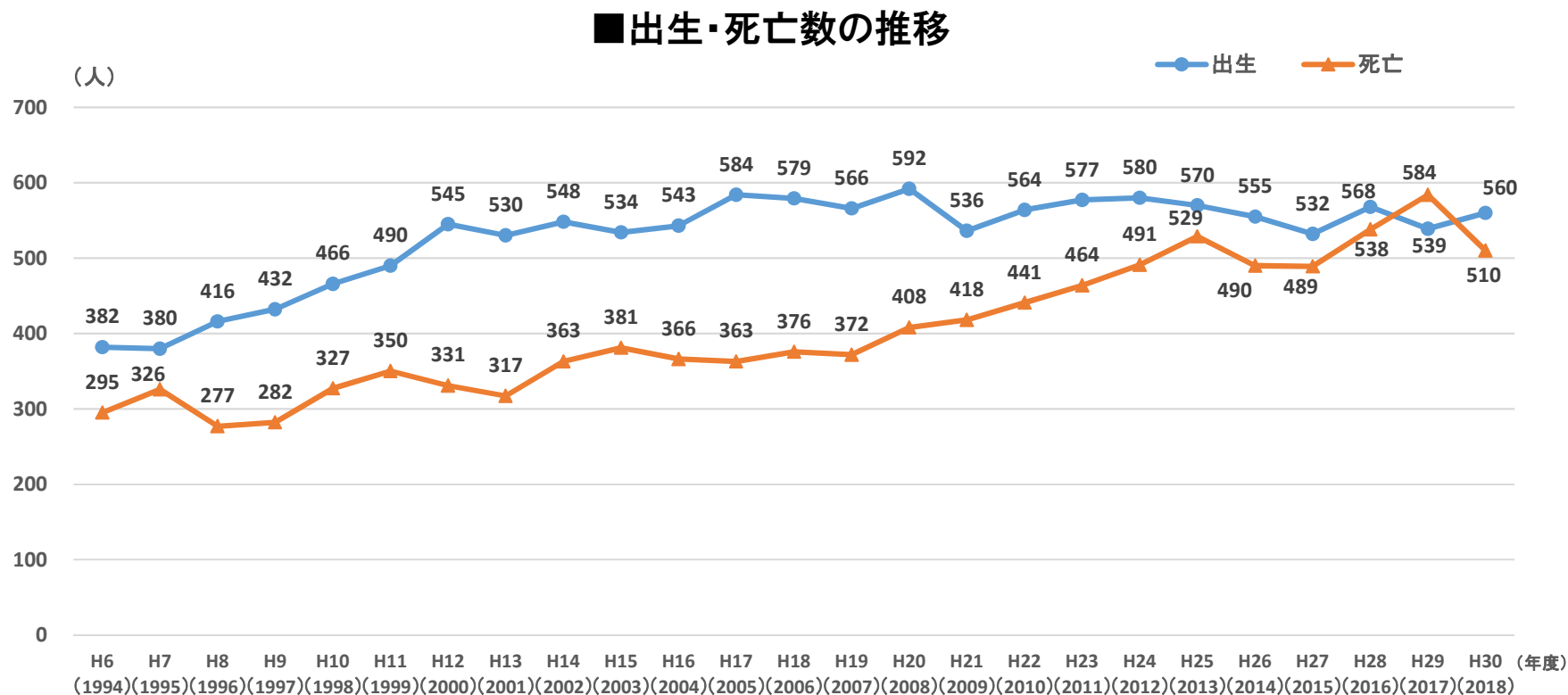
出典：国勢調査

# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【出生・死亡数の推移】

- 自然増減については、出生は横ばい、死亡は増加傾向にあり、平成29（2017）年度を除いて「自然増」となっている



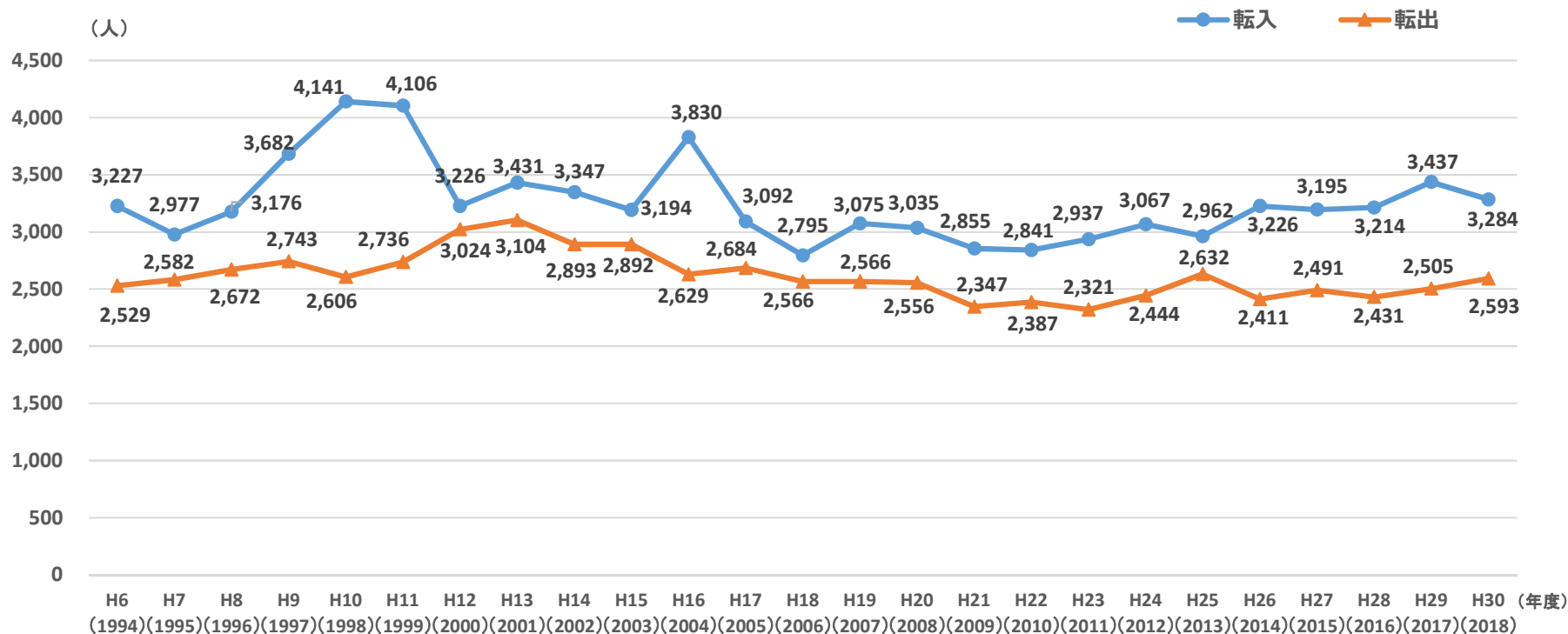
# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【転入・転出数の推移】

- 社会増減については、常に転入が転出を上回っており、「社会増」が続いている

■転入・転出数の推移



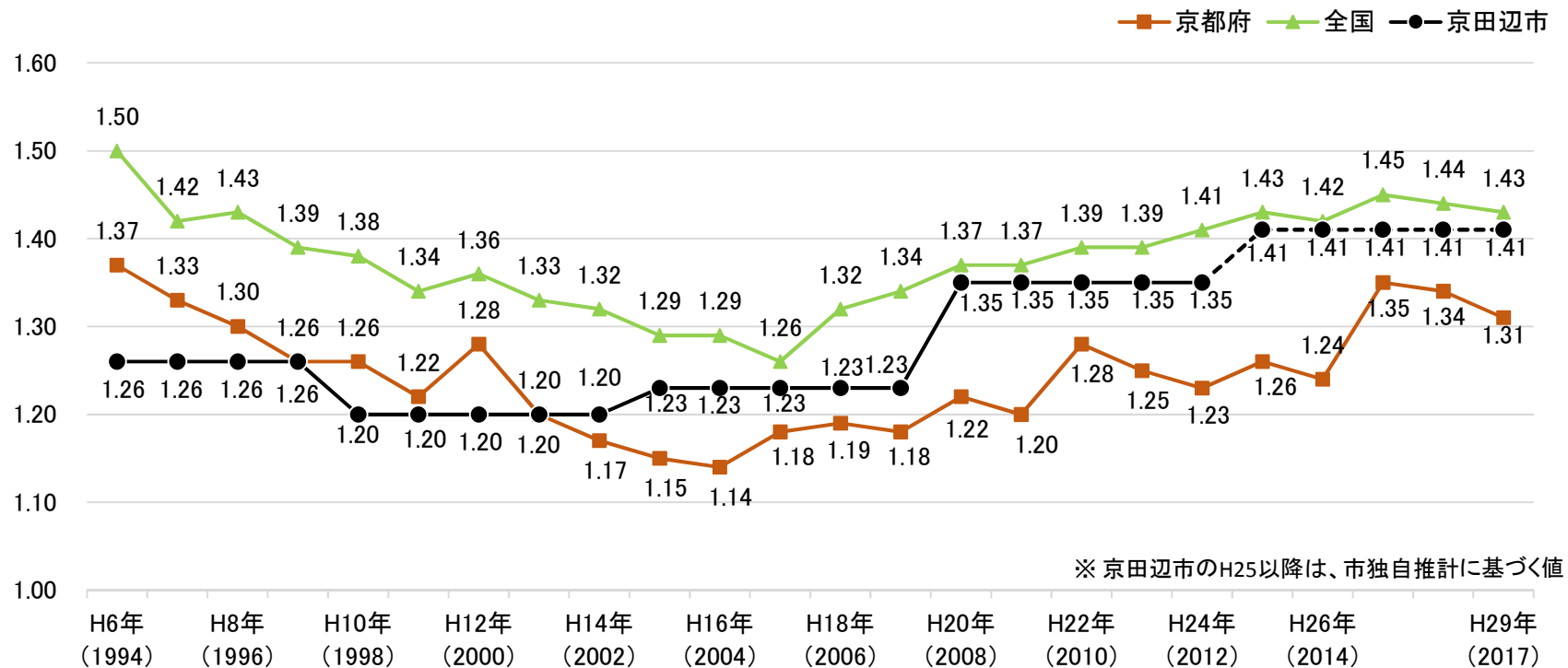
# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【合計特殊出生率の推移】

- 本市の合計特殊出生率は、全国よりも低く、京都府全体よりも高い中間的な値となっている（市町村の合計特殊出生率は、5年毎の発表）

■合計特殊出生率の推移



# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【地域別の人口移動の状況】

- 転入が多い地域の上位3位は、城陽市、八幡市、宇治市
- 転出が多い地域の上位3位は、井手町、京都市下京区、大阪府茨木市

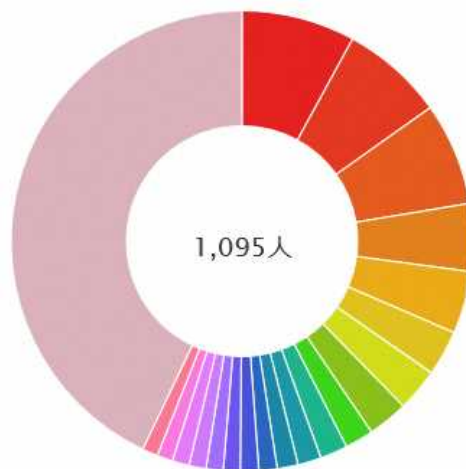
### ■ 転入超過数・転出超過数

平成28(2016)年

#### 転入超過数内訳

総数

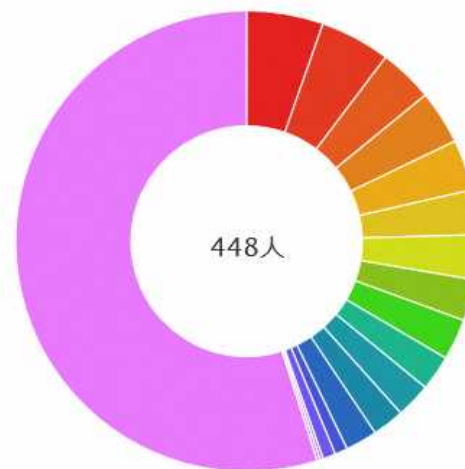
- 1位 京都府城陽市 87人 (7.95%)
- 2位 京都府八幡市 79人 (7.21%)
- 2位 京都府宇治市 79人 (7.21%)
- 4位 大阪府枚方市 52人 (4.75%)
- 5位 京都府京都市伏見区 48人 (4.38%)
- 6位 京都府宇治田原町 35人 (3.20%)
- 7位 大阪府交野市 33人 (3.01%)
- 8位 京都府久御山町 31人 (2.83%)
- 9位 大阪府寝屋川市 22人 (2.01%)
- 10位 京都府木津川市 21人 (1.92%)



#### 転出超過数内訳

総数

- 1位 京都府井手町 24人 (5.36%)
- 2位 京都府京都市下京区 22人 (4.91%)
- 3位 大阪府茨木市 17人 (3.79%)
- 3位 大阪府大阪市中央区 17人 (3.79%)
- 5位 兵庫県西宮市 16人 (3.57%)
- 6位 大阪府大阪市城東区 14人 (3.13%)
- 6位 大阪府大阪市都島区 14人 (3.13%)
- 8位 奈良県奈良市 13人 (2.90%)
- 8位 滋賀県草津市 13人 (2.90%)
- 10位 大阪府大阪市東淀川区 11人 (2.46%)





# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【地域別の人口移動の状況】

- 転入が多い地域の上位3位は、大阪府枚方市、八幡市、宇治市
- 転出が多い地域の上位3位は、木津川市、滋賀県大津市、精華町

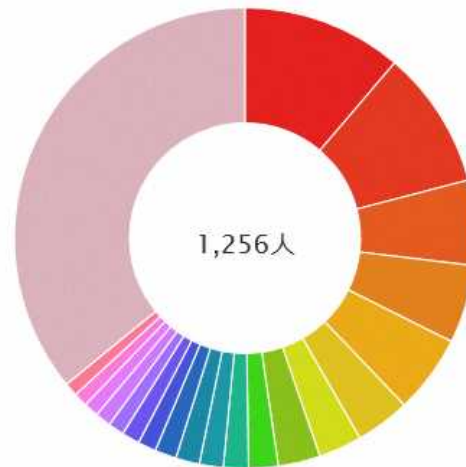
### ■ 転入超過数・転出超過数

平成29(2017)年

転入超過数内訳

総数

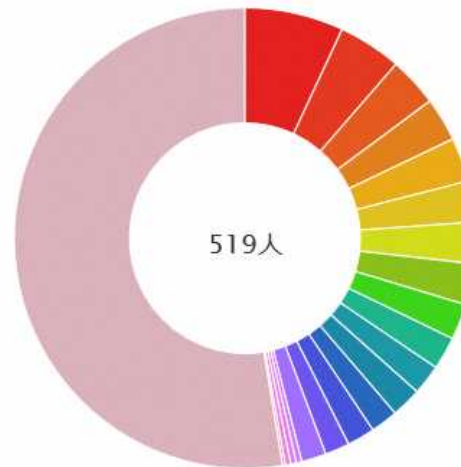
- 1位 大阪府枚方市 141人 (11.23%)
- 2位 京都府八幡市 122人 (9.71%)
- 3位 京都府宇治市 75人 (5.97%)
- 4位 京都府城陽市 69人 (5.49%)
- 4位 京都府京都市伏見区 69人 (5.49%)
- 6位 京都府京都市西京区 48人 (3.82%)
- 7位 大阪府寝屋川市 38人 (3.03%)
- 8位 大阪府高槻市 37人 (2.95%)
- 9位 京都府京都市右京区 26人 (2.07%)
- 10位 京都府井手町 22人 (1.75%)



転出超過数内訳

総数

- 1位 京都府木津川市 36人 (6.94%)
- 2位 滋賀県大津市 23人 (4.43%)
- 3位 京都府精華町 18人 (3.47%)
- 4位 大阪府守口市 16人 (3.08%)
- 4位 大阪府大阪市北区 16人 (3.08%)
- 6位 大阪府東大阪市 15人 (2.89%)
- 6位 大阪府茨木市 15人 (2.89%)
- 6位 京都府福知山市 15人 (2.89%)
- 9位 福岡県福岡市東区 13人 (2.50%)
- 10位 兵庫県神戸市東灘区 12人 (2.31%)



出典:住民基本台帳・地域経済分析システム(RESAS)

# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【地域別の人口移動の状況】

- 転入が多い地域の上位3位は、城陽市、大阪府枚方市、宇治市
- 転出が多い地域の上位3位は、精華町、大阪市北区、滋賀県草津市

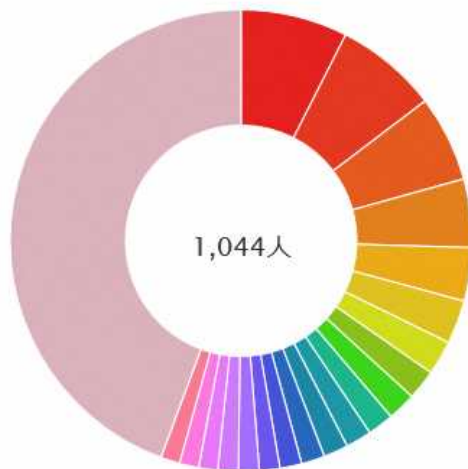
### ■ 転入超過数・転出超過数

平成30(2018)年

#### 転入超過数内訳

総数

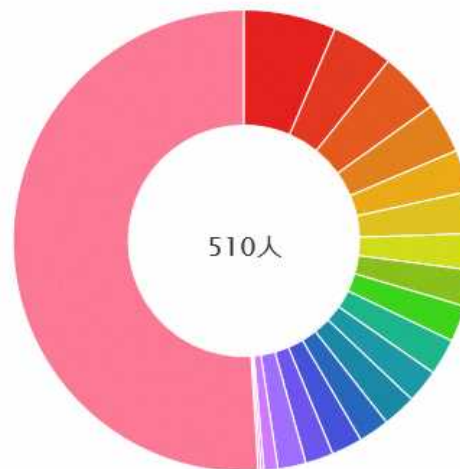
- 1位 京都府城陽市 78人 (7.47%)
- 2位 大阪府枚方市 75人 (7.18%)
- 3位 京都府宇治市 63人 (6.03%)
- 4位 京都府京都市南区 50人 (4.79%)
- 5位 兵庫県三田市 39人 (3.74%)
- 6位 京都府八幡市 32人 (3.07%)
- 7位 大阪府守口市 25人 (2.39%)
- 8位 京都府京都市北区 22人 (2.11%)
- 9位 京都府宇治田原町 21人 (2.01%)
- 10位 大阪府大東市 19人 (1.82%)



#### 転出超過数内訳

総数

- 1位 京都府精華町 33人 (6.47%)
- 2位 大阪府大阪市北区 22人 (4.31%)
- 2位 滋賀県草津市 22人 (4.31%)
- 4位 京都府京都市山科区 18人 (3.53%)
- 5位 香川県高松市 15人 (2.94%)
- 5位 兵庫県福崎町 15人 (2.94%)
- 7位 兵庫県神戸市中央区 13人 (2.55%)
- 7位 大阪府大阪市都島区 13人 (2.55%)
- 7位 京都府木津川市 13人 (2.55%)
- 7位 東京都大田区 13人 (2.55%)



出典:住民基本台帳・地域経済分析システム(RESAS)

# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【人口ビジョン第1期と第2期の転入超過数・転出超過数の比較】

- 第1期での地域別の人口移動の状況で、平成24（2012）年、平成25（2013）年、平成26（2014）年の3カ年を合わせた上位は、  
 転入では、宇治市304人、城陽市287人、枚方市239人  
 転出では、京都市上京区216人、京都市中京区97人、京都市下京区46人
- 第2期での地域別の人口移動の状況で、平成28（2016）年、平成29（2017）年、平成30（2018）年の3カ年を合わせた上位は、  
 転入では、枚方市268人、城陽市234人、八幡市233人  
 転出では、精華町51人、木津川市49人、大阪市北区38人

#### ■転入超過数・転出超過数の比較

同志社大学文学部  
移転に伴う転出

転入	第1期		第2期		転出	第1期		第2期	
1位	宇治市	304人	枚方市	268人	1位	京都市上京区	216人	精華町	51人
2位	城陽市	287人	城陽市	234人	2位	京都市中京区	97人	木津川市	49人
3位	枚方市	239人	八幡市	233人	3位	京都市下京区	46人	大阪市北区	38人
4位	京都市伏見区	202人	宇治市	217人	4位	大阪市北区	42人	草津市	35人
5位	長岡京市	50人	京都市伏見区	117人	5位	豊中市	32人	茨木市	32人

# 人口動向分析

## 1. 人口動向に関する分析

### 【昼間・夜間人口の推移】

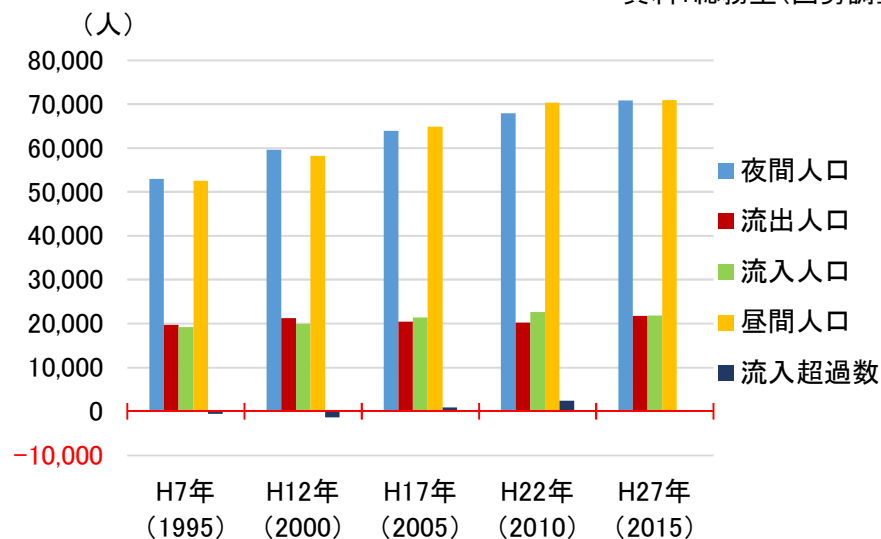
- 昼間人口、夜間人口とも増加
- 平成7（1995）年、平成12（2000）年は流出超過
- 平成17（2005）年以降は流入超過

### ■ 国勢調査京田辺市の昼間人口・夜間人口の推移

（各年10月1日現在調）単位：人、%

区分	H7年 (1995)	H12年 (2000)	H17年 (2005)	H22年 (2010)	H27年 (2015)
夜間人口(A)	53,031	59,575	63,982	67,910	70,835
流出口(B)	19,722	21,247	20,494	20,207	21,750
流入人口(C)	19,226	19,888	21,394	22,631	21,825
昼間人口(D=A-B+C)	52,535	58,216	64,882	70,334	70,910
流入超過数(C-B)	△ 496	△ 1,359	900	2,424	75
流出率(B/A×100)	37.2	35.7	32.0	29.8	30.7
流入率(C/A×100)	36.3	33.4	33.4	33.3	30.8
昼間人口比率(D/A×100)	99.1	97.7	101.4	103.6	100.1

資料：総務室(国勢調査)



出典：京田辺市総務室(国勢調査)

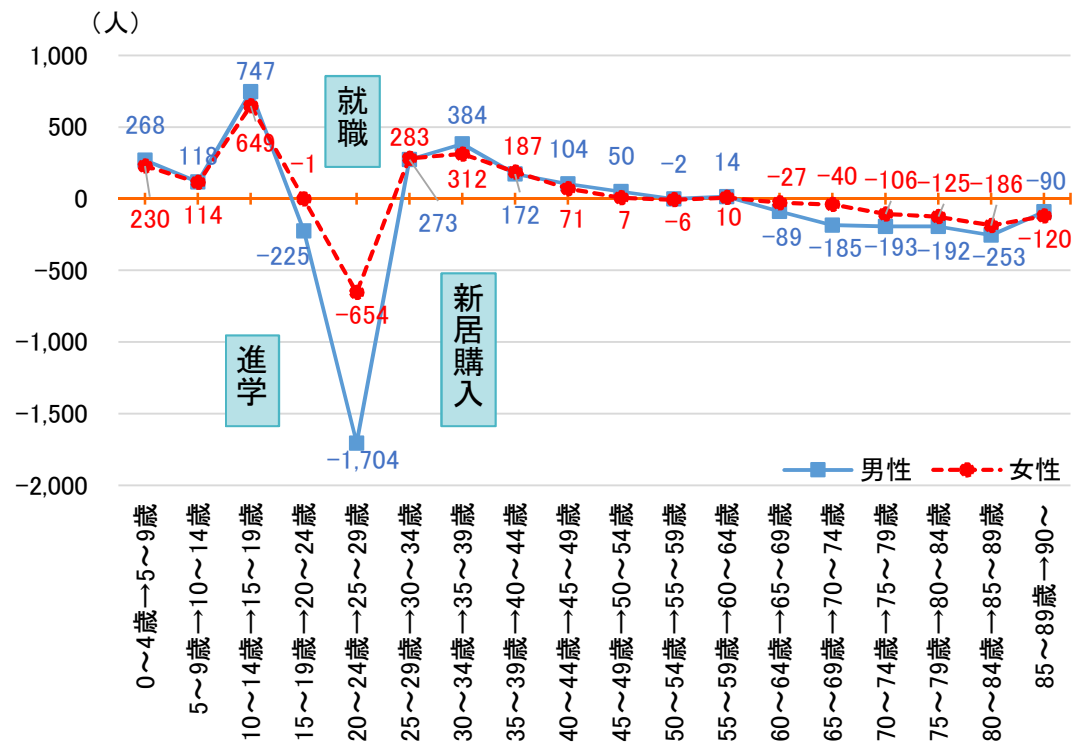
# 人口動向分析

## 2. 年齢階層別の人口移動分析

### 【性別・年齢階級別人口増減の状況】

- 平成22（2010）年から平成27（2015）年の増加数は、男女とも15～19歳層で大幅な増加、25～29歳層は大幅な減少、30～34歳、35～39歳層でやや増加
- 25～29歳層の減少は、男性の方が女性より多い

■平成22(2010)年→平成27(2015)年の性別・年齢階級別人口移動



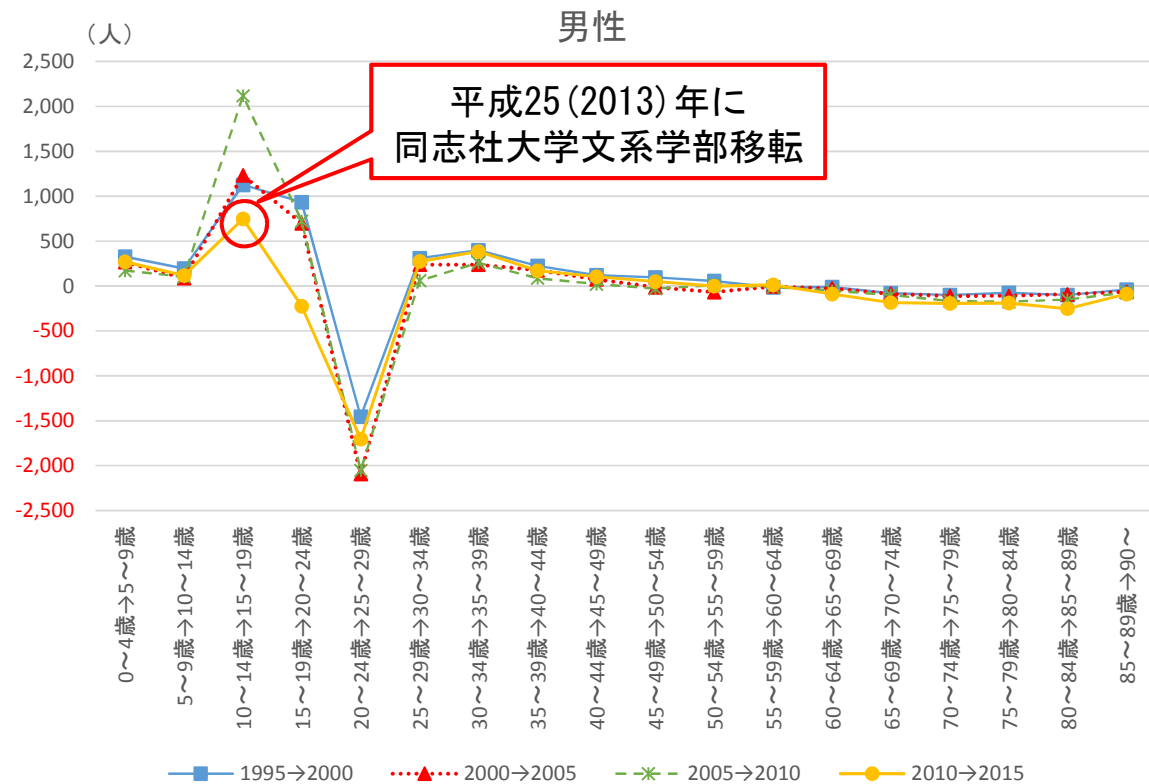
# 人口動向分析

## 2. 年齢階層別の人口移動分析

### 【性別・年齢階級別人口増減の長期的動向】

- 男性は、15～19 歳層の大幅な転入超過、25～29 歳層の大幅な転出超過
- しかし、平成 25 (2013) 年には同志社大学文系学部が今出川キャンパスへ移転し、大きく転入が減少
- 30～34 歳から35～39 歳の増加は、土地区画整理事業の住宅販売の影響

■ 年齢階級別人口移動の長期的動向(男)



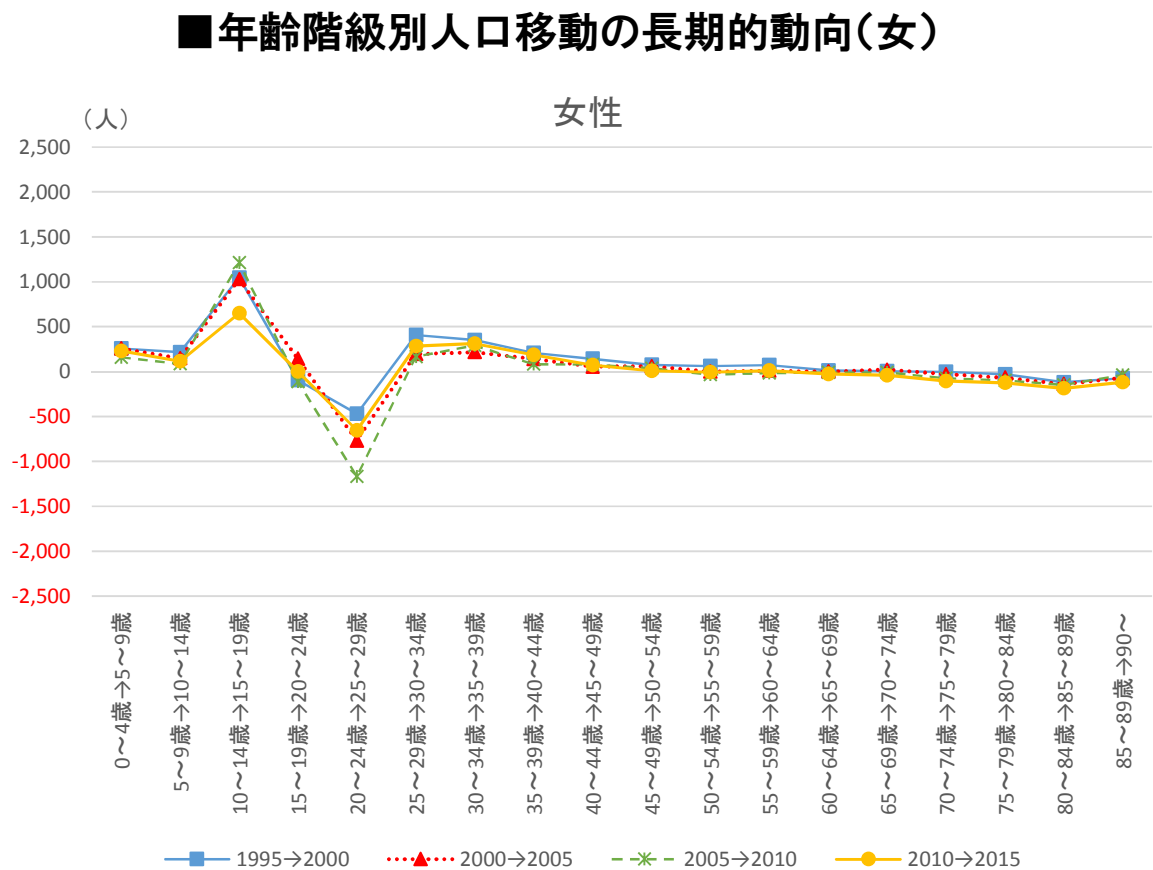
出典:平成30年版京田辺市統計書「第3章 国勢調査」

# 人口動向分析

## 2. 年齢階層別の人口移動分析

### 【性別・年齢階級別人口増減の長期的動向】

- 女性は、増減の総数が男性に比べ少ないが、男性と同様の傾向がみられる



出典:平成30年版京田辺市統計書「第3章 国勢調査」

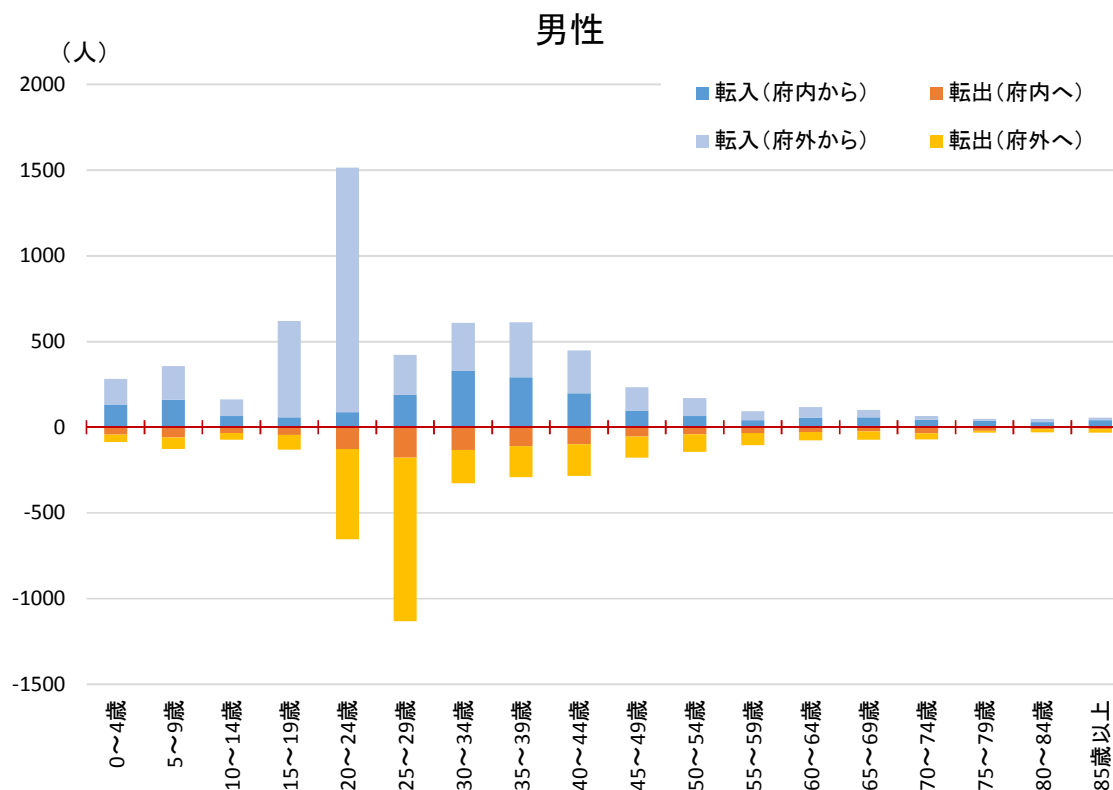
# 人口動向分析

## 2. 年齢階層別の人口移動分析

### 【性別・年齢階級別の地域間の人口移動の状況】

- 15～19 歳、20～24 歳については、そのほとんどが府外からの転入
- 府内からの転入については、10～14歳の転入数と大差がなく、同志社大学等への進学による転入と考えられる
- 転出については、20～24 歳、25～29 歳で府外への転出の割合が多く、大学卒業後就職により府外に転出していると考えられる

■ 年齢階級別地域間の人口移動(男)



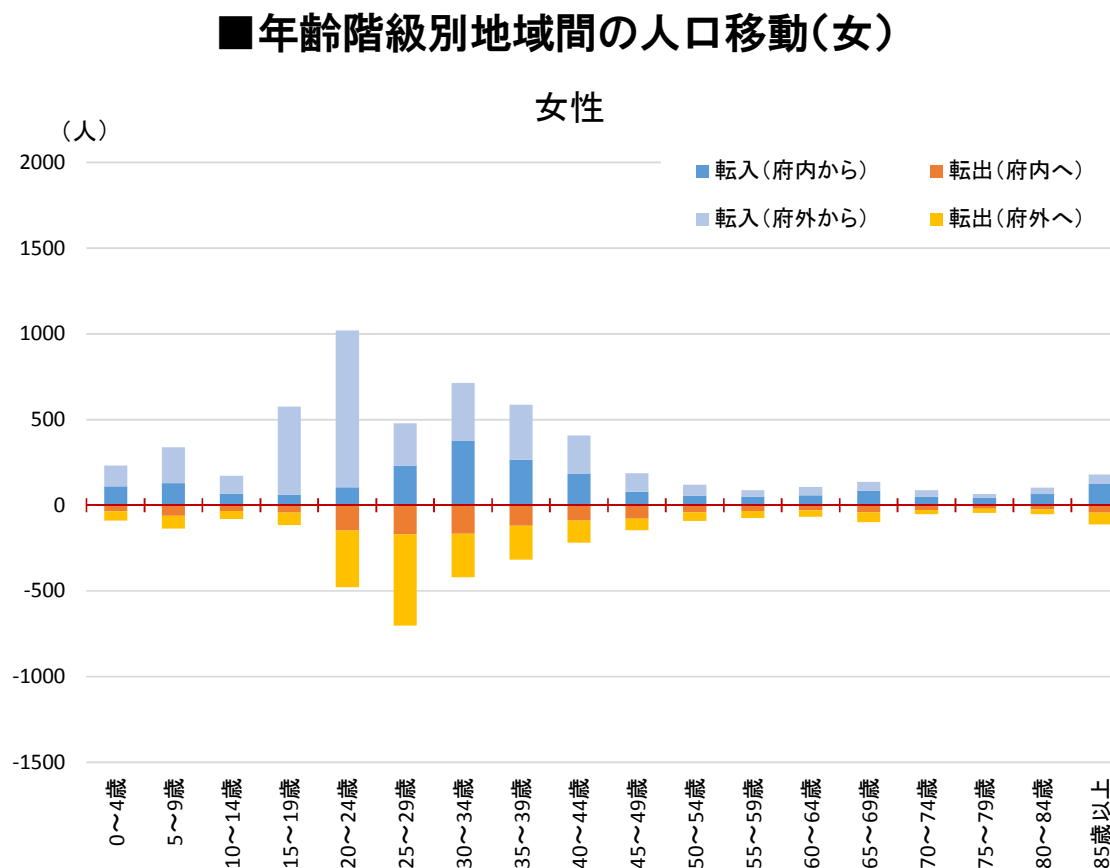


# 人口動向分析

## 2. 年齢階層別の人口移動分析

### 【性別・年齢階級別の地域間の人口移動の状況】

- 男性と同様の傾向を示しており、15～19歳、20～24歳の転入は同志社大学等への進学と考えられる
- 転出については、20～24歳、25～29歳で府外への転出の割合が多くなっている



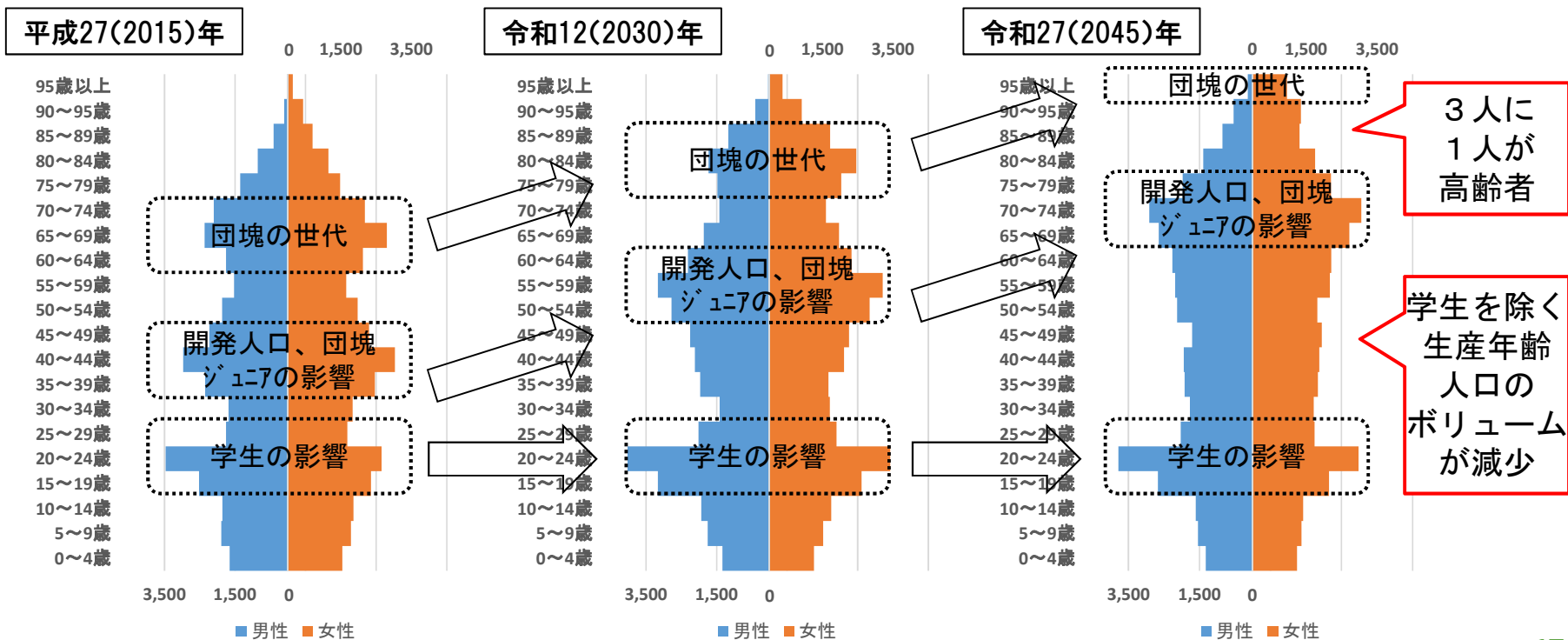
# 将来人口の検討と課題整理

## 1. 将来人口と人口構成

- 人口構成の特徴は、15～24 歳層の学生による人口増であり、35～49 歳層の開発による人口増及び団塊ジュニア層（1970 年代前半に生まれた世代）の存在で示される

■将来人口(年齢別人口ピラミッド)(左:男、右:女)

(単位:人)



# 将来人口の検討と課題整理

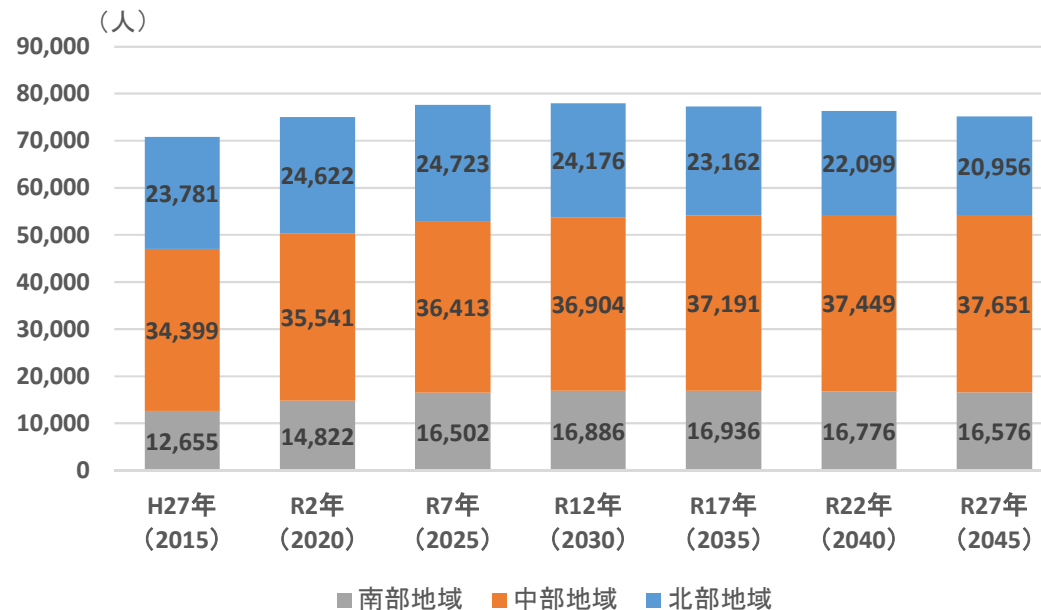
## 2. 地域別人口推計

- 北部地域は、令和7(2025)年をピークに、その後は減少
- 中部地域は、令和27(2045)年まで増加
- 南部地域は、令和17(2035)年をピークに、その後は減少

■将来人口推計(3地域区分別)

(単位:人)

地域	H27年 (2015)	R2年 (2020)	R7年 (2025)	R12年 (2030)	R17年 (2035)	R22年 (2040)	R27年 (2045)
北部地域	23,781	24,622	24,723	24,176	23,162	22,099	20,956
中部地域	34,399	35,541	36,413	36,904	37,191	37,449	37,651
南部地域	12,655	14,822	16,502	16,886	16,936	16,776	16,576
合計	70,835	74,985	77,638	77,966	77,289	76,324	75,183



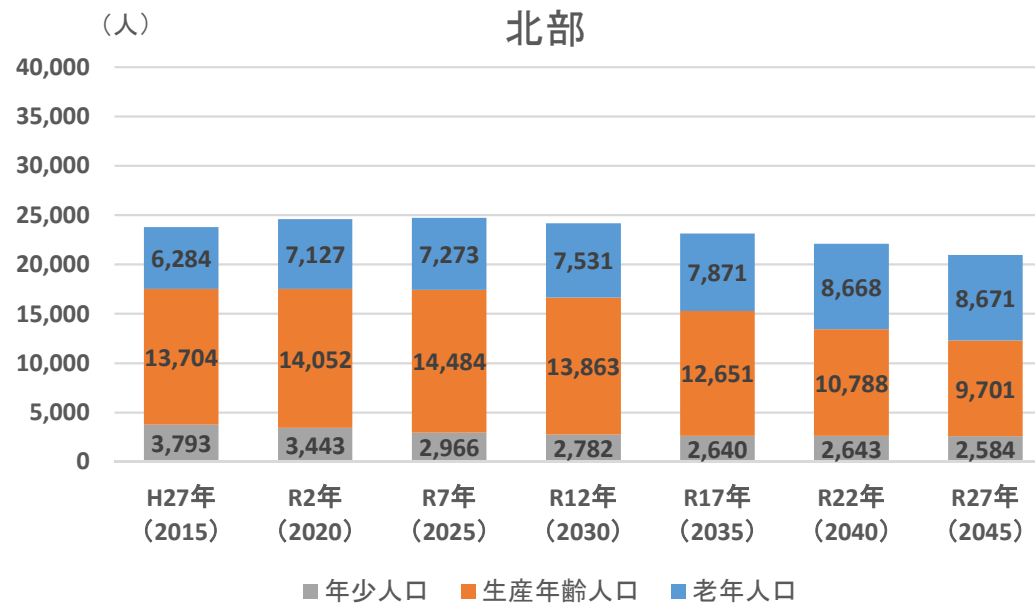
# 将来人口の検討と課題整理

## 3. 年齢3区分別人口推計

### 【北部地域】

- 北部地域は、年少人口は平成27（2015）年以降減少、生産年齢人口は令和7（2025）年をピークに減少、老年人口は増加

■将来人口推計(3地域区分別、年齢3区分別)



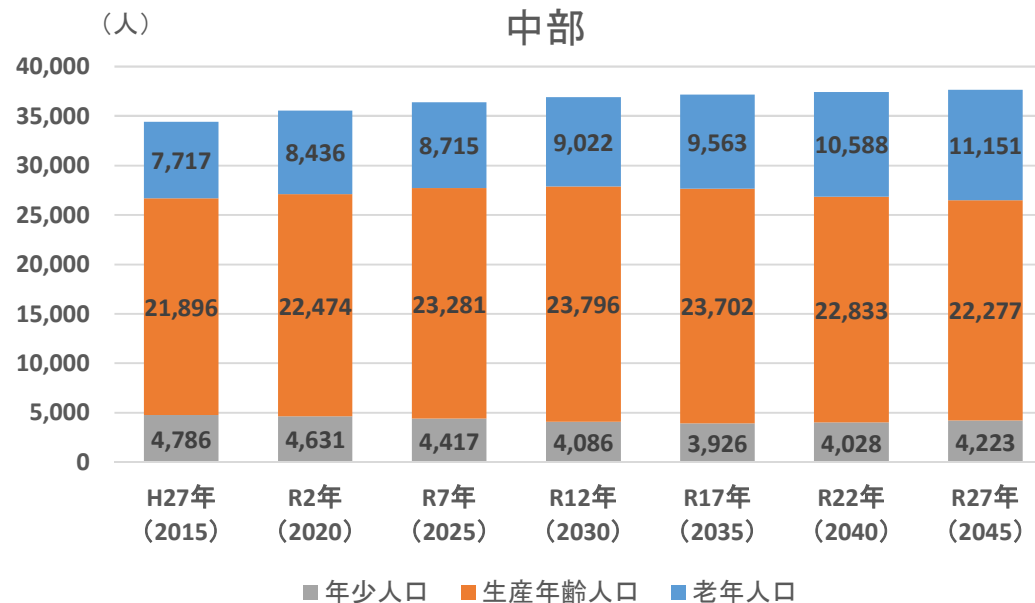
# 将来人口の検討と課題整理

## 3. 年齢3区分別人口推計

### 【中部地域】

- 中部地域は、年少人口は平成27（2015）年以降減少、生産年齢人口は令和12（2030）年をピークに減少、老年人口は増加

■将来人口推計(3地域区分別、年齢3区分別)



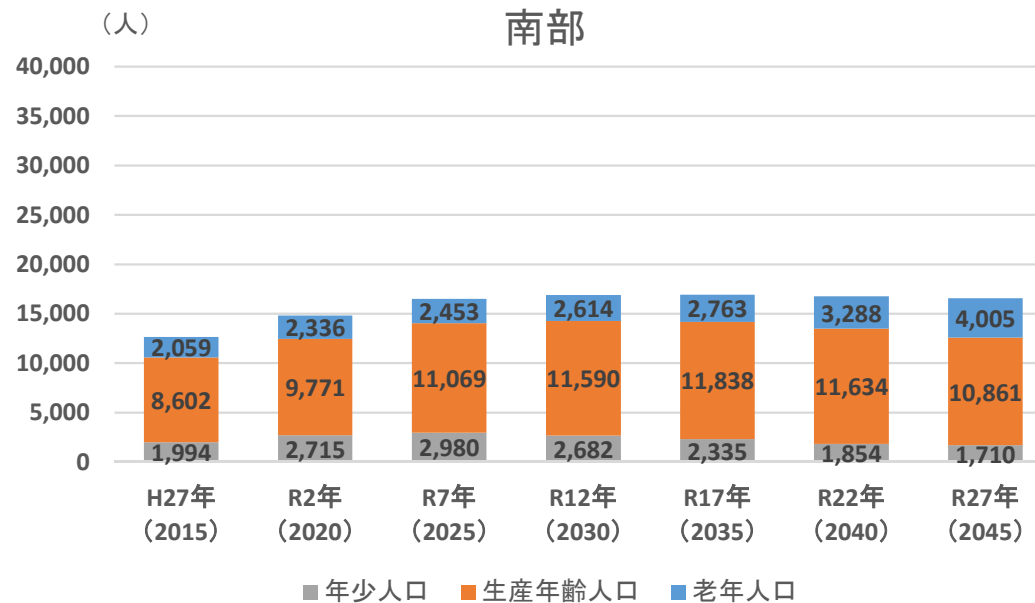
# 将来人口の検討と課題整理

## 3. 年齢3区分別人口推計

### 【南部地域】

- 南部地域は、年少人口は令和7（2025）年をピークに減少、生産年齢人口は令和17（2035）年をピークに減少、老年人口は増加

■将来人口推計(3地域区分別、年齢3区分別)



# 将来人口の検討と課題整理

## 3. 年齢3区分別人口推計

### 【3地域】

#### ■将来人口推計(3地域区分別、年齢3区分別)

上段: 人、下段: 地域別の全人口を100とした時の比率(%)

区分		H27年 (2015)	R2年 (2020)	R7年 (2025)	R12年 (2030)	R17年 (2035)	R22年 (2040)	R27年 (2045)
北部 地域	年少人口	3,793	3,443	2,966	2,782	2,640	2,643	2,584
		15.9%	14.0%	12.0%	11.5%	11.4%	12.0%	12.3%
	生産年齢 人口	13,704	14,052	14,484	13,863	12,651	10,788	9,701
		57.6%	57.1%	58.6%	57.3%	54.6%	48.8%	46.3%
老年人口	6,284	7,127	7,273	7,531	7,871	8,668	8,671	
	26.4%	28.9%	29.4%	31.2%	34.0%	39.2%	41.4%	
中部 地域	年少人口	4,786	4,631	4,417	4,086	3,926	4,028	4,223
		13.9%	13.0%	12.1%	11.1%	10.6%	10.8%	11.2%
	生産年齢 人口	21,896	22,474	23,281	23,796	23,702	22,833	22,277
		63.7%	63.2%	63.9%	64.5%	63.7%	61.0%	59.2%
老年人口	7,717	8,436	8,715	9,022	9,563	10,588	11,151	
	22.4%	23.7%	23.9%	24.4%	25.7%	28.3%	29.6%	
南部 地域	年少人口	1,994	2,715	2,980	2,682	2,335	1,854	1,710
		15.8%	18.3%	18.1%	15.9%	13.8%	11.1%	10.3%
	生産年齢 人口	8,602	9,771	11,069	11,590	11,838	11,634	10,861
		68.0%	65.9%	67.1%	68.6%	69.9%	69.3%	65.5%
老年人口	2,059	2,336	2,453	2,614	2,763	3,288	4,005	
	16.3%	15.8%	14.9%	15.5%	16.3%	19.6%	24.2%	

# 人口の将来展望

## 1. 仮定値による将来人口の推計

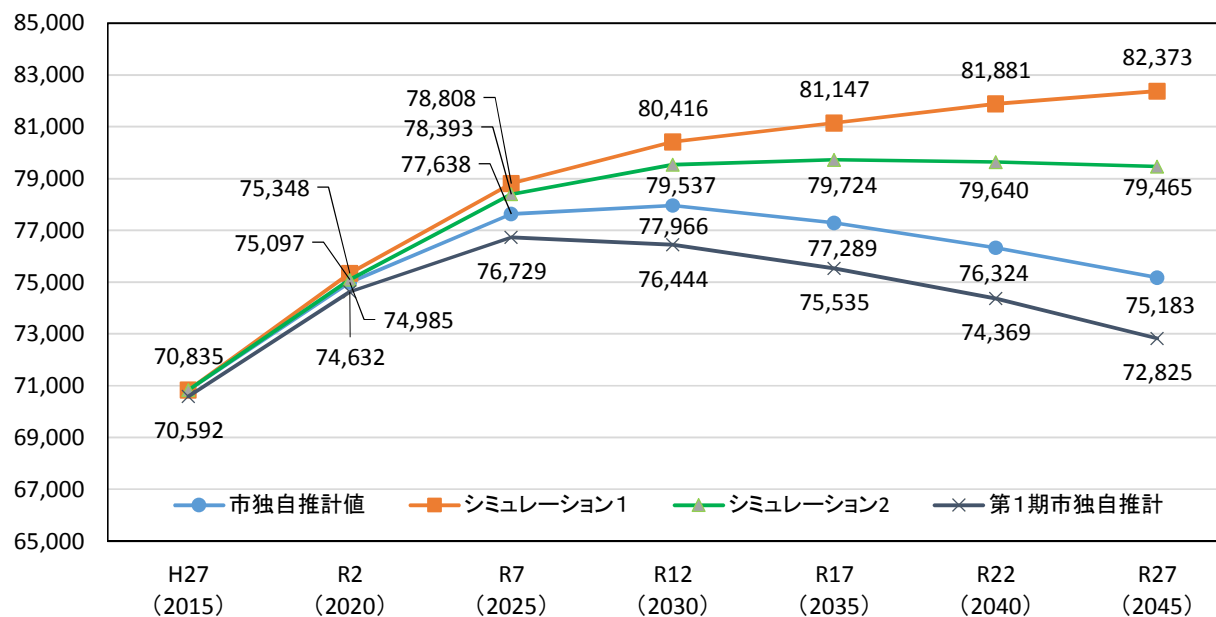
- 人口の将来展望を行うにあたり、市独自推計を基に、シミュレーション1、シミュレーション2の合計特殊出生率を当てはめ、推計期間を令和27（2045）年までとする人口推計シミュレーションを行った
- その結果、シミュレーション1では人口は増加し続け、シミュレーション2では横ばいで推移する結果となった

■人口推計シミュレーション

合計特殊出生率	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)
シミュレーション1	1.6	1.8	-	2.07
シミュレーション2	1.53	1.60	1.66	1.73

※シミュレーション1は、合計特殊出生率をR7（2025）年=1.6、R12（2030）年=1.8、R22（2040）年以降=2.07に設定（間は傾斜）（国の考え方に準じる。）

※シミュレーション2は、市独自推計に基づき本市の出生率の変化率（H22（2010）年=1.35）→H27（2015）=1.41）である1.04倍で5年ごとに上昇すると仮定した場合の値（人）



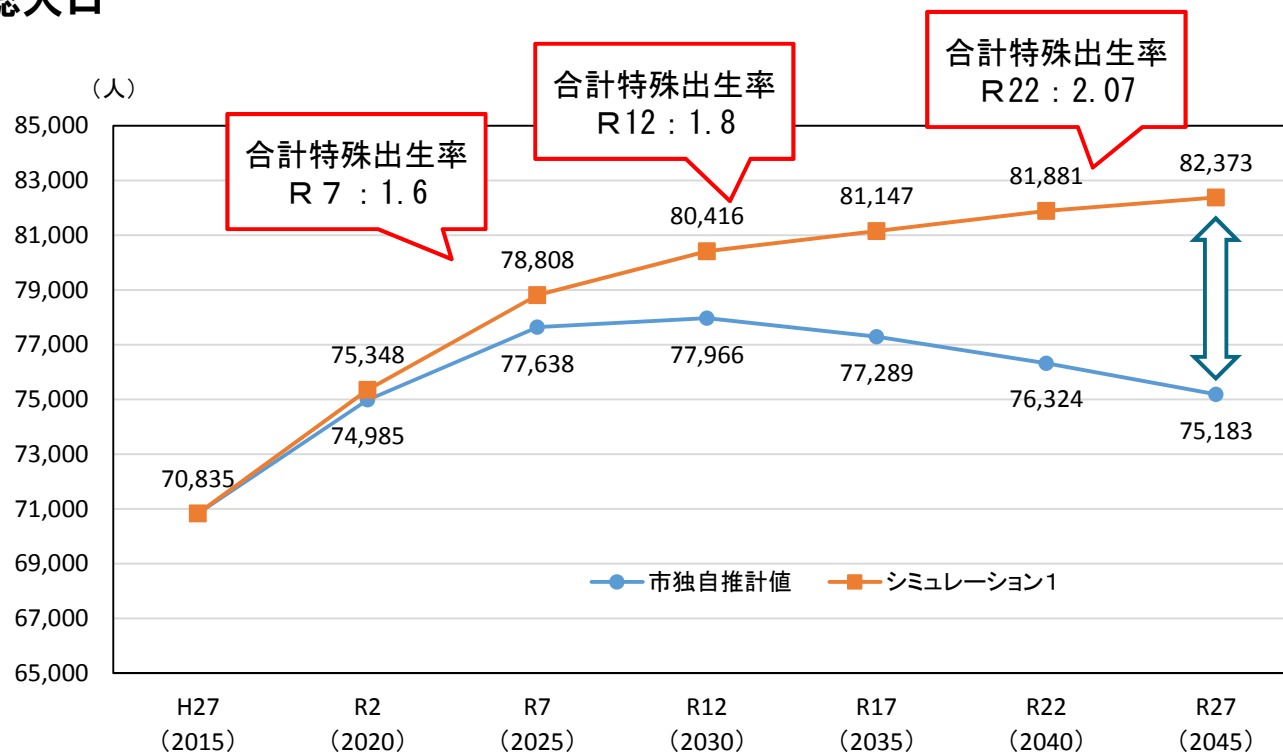


# 人口の将来展望

## 2. 人口の将来展望

- 市民の結婚、出産に関する希望の実現により、国、府の設定と同程度に出生率が改善し、社会移動状況も一定維持されれば、将来的にもバランスの取れた人口構成となり、現総合計画における人口フレーム8万人も満たされ、持続的に成長、発展するまちにつながります。

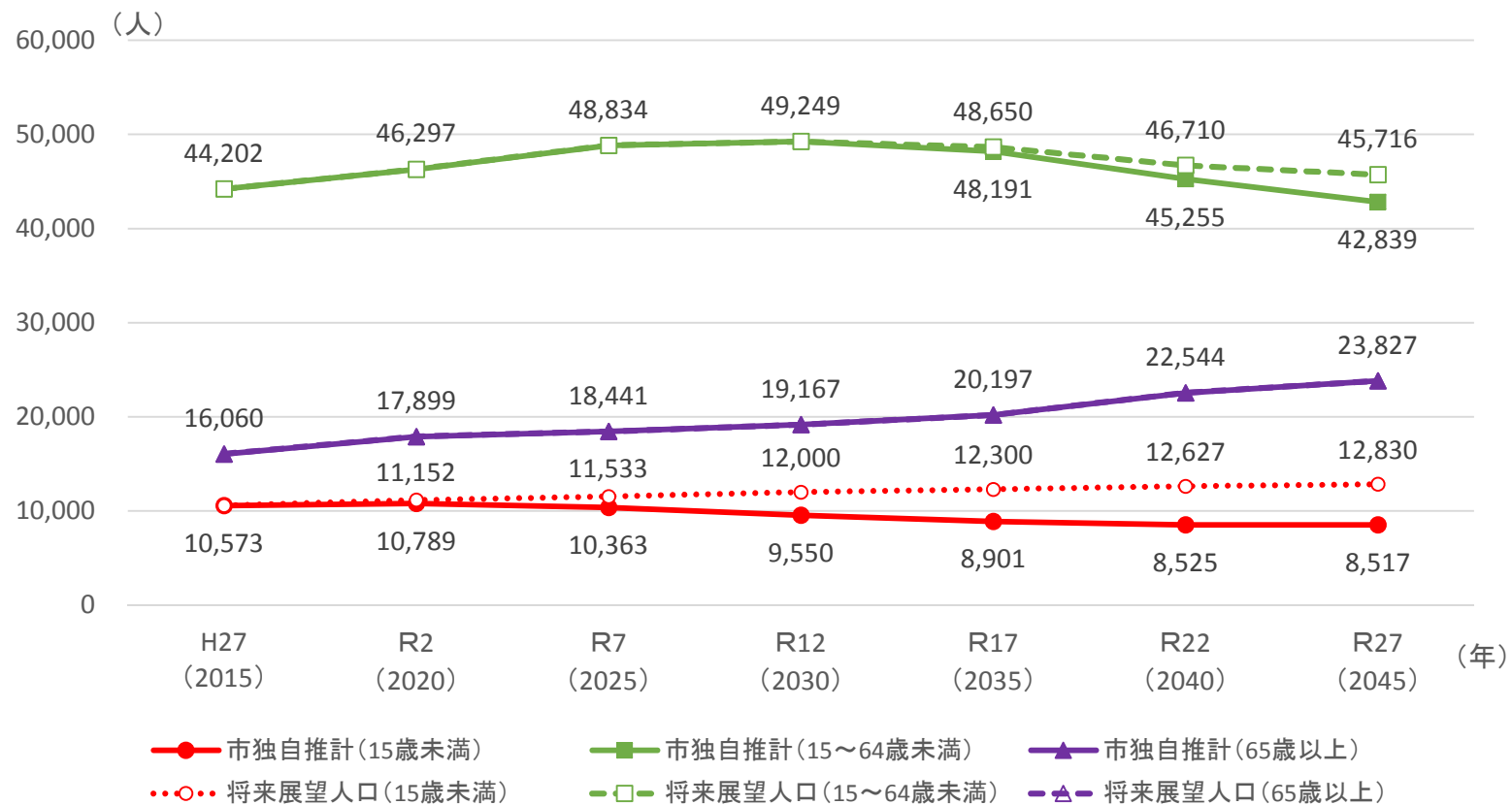
### ■総人口



# 人口の将来展望

## 2. 人口の将来展望

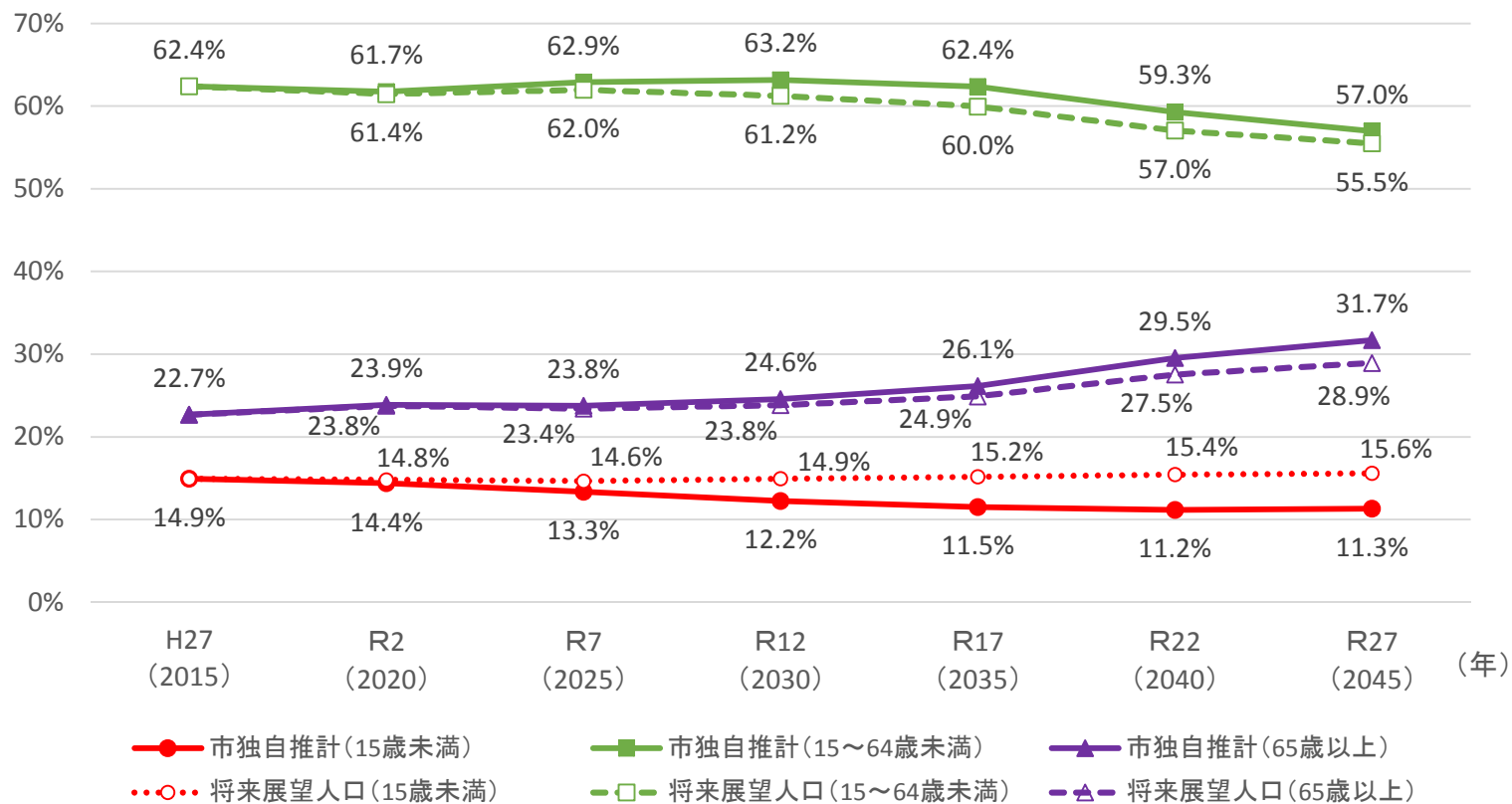
■年齢3区分人口



# 人口の将来展望

## 2. 人口の将来展望

■ 年齢3区分人口割合



# 人口の将来展望

## 2. 人口の将来展望

■人口推計シミュレーション結果一覧

区分		H27年 (2015)	R2年 (2020)	R7年 (2025)	R12年 (2030)	R17年 (2035)	R22年 (2040)	R27年 (2045)	
独自推計	実数	15歳未満	10,573	10,789	10,363	9,550	8,901	8,525	8,517
		15～64歳	44,202	46,297	48,834	49,249	48,191	45,255	42,839
		65歳以上	16,060	17,899	18,441	19,167	20,197	22,544	23,827
		合計	70,835	74,985	77,638	77,966	77,289	76,324	75,183
	構成比	15歳未満	14.9%	14.4%	13.3%	12.2%	11.5%	11.2%	11.3%
		15～64歳	62.4%	61.7%	62.9%	63.2%	62.4%	59.3%	57.0%
65歳以上		22.7%	23.9%	23.8%	24.6%	26.1%	29.5%	31.7%	
シミュレーション1	実数	15歳未満	10,573	11,152	11,533	12,000	12,300	12,627	12,830
		15～64歳	44,202	46,297	48,834	49,249	48,650	46,710	45,716
		65歳以上	16,060	17,899	18,441	19,167	20,197	22,544	23,827
		合計	70,835	75,348	78,808	80,416	81,147	81,881	82,373
	構成比	15歳未満	14.9%	14.8%	14.6%	14.9%	15.2%	15.4%	15.6%
		15～64歳	62.4%	61.4%	62.0%	61.2%	60.0%	57.0%	55.5%
65歳以上		22.7%	23.8%	23.4%	23.8%	24.9%	27.5%	28.9%	
シミュレーション2	実数	15歳未満	10,573	10,901	11,118	11,121	11,180	10,913	10,945
		15～64歳	44,202	46,297	48,834	49,249	48,347	46,183	44,693
		65歳以上	16,060	17,899	18,441	19,167	20,197	22,544	23,827
		合計	70,835	75,097	78,393	79,537	79,724	79,640	79,465
	構成比	15歳未満	14.9%	14.5%	14.2%	14.0%	14.0%	13.7%	13.8%
		15～64歳	62.4%	61.6%	62.3%	61.9%	60.6%	58.0%	56.2%
65歳以上		22.7%	23.8%	23.5%	24.1%	25.3%	28.3%	30.0%	